

2019年度 第59回 米子市美術展覧会(市展) 市展賞受賞作品講評

洋画部門

ふりがな	あかもと かずお	ふりがな	あした
氏名又は 雅号	赤本 和夫	作品名	明日へ
<p>絵画表現に対する自信と意気込みを感じます。歯切れの良い表現スタイルを創作上にうまく工夫されて、気持ちのいい予感を持つのは私だけではないと思います。画面いっぱい面状を創作の軸とした技術は、多年の努力の結果を見ることが出来る。この際思い切って明暗のアクセントをもった絵が見たい。すばらしい絵でした。</p> <p style="text-align: right;">(評者:田中 良一)</p>			
ふりがな	やお よういち	ふりがな	はる ちか
氏名又は 雅号	八尾 洋一	作品名	春近し
<p>画家の取り組まれる姿勢並びに自然のもつ力強さを体感を通して受け止め、表現の軸とされている点は十分に理解することが出来ます。自分だけと言った気持ちだけでなく、多くの鑑賞者に山の雄大な姿、それにともなう生命力などこの題材は氏の宝として追求されることを願います。雪の冷たさ、香りのやさしさなど自然の息吹きを表現されることを希望します。</p> <p style="text-align: right;">(評者:田中 良一)</p>			

日本画部門

ふりがな		ふりがな	
氏名又は 雅号		作品名	
<p>該当なし</p>			

書道部門

ふりがな	わたなべ りよくふう	ふりがな	きちんはくききんりょう
氏名又は 雅号	渡辺 緑風	作品名	寄陳伯璣金陵
<p>明清の書風を基にして書かれた作品であり、気負いの無い流れと練度の高さを思わせる線質は見る者にとって好感のもてる作品となっている。</p> <p style="text-align: right;">(評者:藤山 雅鳳)</p>			
ふりがな	いづな かほ	ふりがな	きんしさんしゅ
氏名又は 雅号	飯綱 禾穂	作品名	金詩三首
<p>宋と明代の書風を基調にして、多数字を書いている。全体の行の流れを仕上げる目標としたと思いますが、作者の意欲がよく感じられる佳作となっています。</p> <p style="text-align: right;">(評者:船原 濤軒)</p>			
ふりがな	せざき きょうこ	ふりがな	わかやまぼくすい うた
氏名又は 雅号	瀬崎 恭子	作品名	若山牧水の歌
<p>力強い作品となった。墨量をうまく使って、作品の流れを出し、作品全体から心地よい音楽がきこえて来るようである。書線も強く、構成もよくまとまっている。</p> <p style="text-align: right;">(評者:柴野 芳泉)</p>			

## 写真部門

ふりがな	たけもと ひろふみ	ふりがな	ぐんしゅう
氏名又は 雅号	武本 宏文	作品名	群 衆
<p>躍動的な手の動きが大胆に切りとってある。モノクロプリントの調子は、フォルムで表現した場合に使う固めの仕上げで印象的である。バックの白い部分が少し多く情報不足で、工夫が必要。</p> <p>(評者: 福島多暉夫)</p>			

ふりがな	はせがわ としこ	ふりがな	かがや
氏名又は 雅号	長谷川 利子	作品名	煌 き
<p>日常の断片をうまく切り取り、一つの組み写真として昇華している。特に中央の光のあたる花の表現は印象的である。</p> <p>(評者: 福島多暉夫)</p>			

## 工芸部門

ふりがな	いけぐち さだみ	ふりがな	こうりゅう
氏名又は 雅号	池口 貞美	作品名	アジアアロワナ・紅龍
<p>アロワナの爬虫類にも似たうろこの質感やひれの細部まで良く彫り込んであり、少し水面を見上げる様な構図もゆったりとしたアロワナらしい動きが感じられる。欲をいえば彩色部分でもう少し陰影がつけられたらと思うが、全体的にモチーフに合わせた表現が出来た良い作品と思える。</p> <p>(評者: 大谷 治)</p>			

ふりがな	とみた たかゆき	ふりがな	のうめん はんにや
氏名又は 雅号	富田 隆之	作品名	(能面) 般 若
<p>一個の個体から凸凹を付けて彫り込むと言う事は、やって無い者から見れば大変と思える事を、その道の方なら素晴らしく作品として仕上げて当たり前ですが、表情も陰しくよく出来た作品と思えます!!</p> <p>(評者: 安藤 釉三)</p>			

## 彫刻部門

ふりがな	おかだ ともよし	ふりがな	かぜ あくぎ
氏名又は 雅号	岡田 友良	作品名	風の悪戯
<p>一木の木彫で、空間を意識した作品である。大きく弧を描くように上昇する布のような断片は、危うさと心地よい緊張感を見る側に与えている。空間の把握や刀の扱いなど卓越したものを感じる。ただ、ひとつ難をいえば台座の扱いである。作品を生かすための形、素材について再考してみていただきたい。</p> <p>(評者: 永江 靖幸)</p>			